

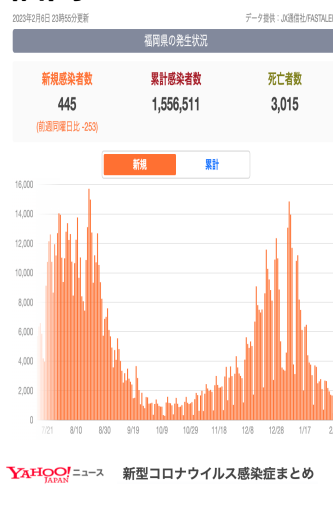
実効再生産数 全国



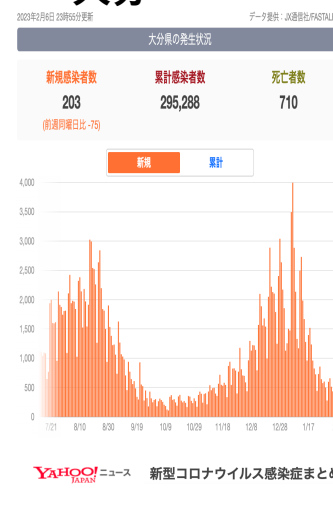
実効再生産数 宮崎



実効再生産数 福岡



実効再生産数 大分



宮崎県DATA (2/7)
 医療機関入院中104名(延5)
 宿泊療養施設入所中272名(延4)
 入院ベット専有率
 (宮崎県25.0%) (延7.4%)

宮崎県全域で減少傾向

1回目	104,636,102人	81.4%
2回目	103,265,756人	80.4%
3回目	85,799,922人	68.1%
4回目	57,363,649人	—

※オミクロン株対応ワクチン接種完了者：53,313,624人
<出典>：宮崎県庁 (2/7日現在)

九州の感染者は減少、中国・四国が感染者多い。
 また、中国からの渡航者から、**BF7, BQ.1, XBB.1.5**
 に注意。国内感染者は、しばらく横ばい状態で、
 オミクロン亜種の増加で、再上昇の可能性高い

直近1週間の人口10万人あたりの感染者数



宮崎県
243(21位)

延岡市の感染人数

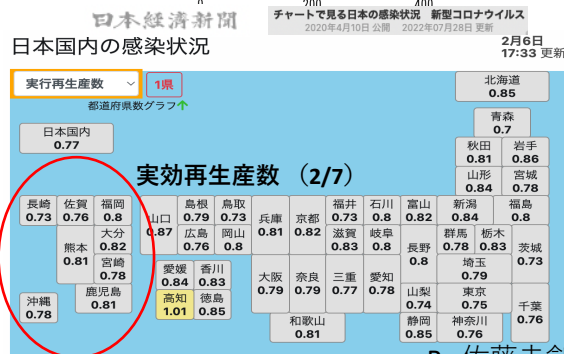


by 佐藤圭創

- 9/6 178
- 9/14 150
- 9/17 54
- 9/24 71
- 10/3 83
- 10/10 28
- 10/17 93
- 10/24 83
- 10/31 65
- 11/7 69
- 11/14 75
- 11/21 59
- 11/28 107
- 12/5 143
- 12/12 301
- 12/19 363
- 12/26 496
- 1/2 288
- 1/6 413
- 1/16 213
- 1/23 76
- 1/30 83
- 2/6 45

延岡市の実効再生産数

- 8/24 1.57
- 9/26 1.09
- 11/8 0.98
- 11/15 1.00
- 11/22 1.00
- 11/29 1.28
- 12/5 1.33
- 12/12 1.54
- 12/19 1.24
- 12/26 1.26
- 1/2 0.91
- 1/10 1.15
- 1/17 0.73
- 1/24 0.51
- 1/31 0.80
- 2/7 0.81



1 By 佐藤圭創

感染症は割合（％）ではなく、総数が問題

死亡者数
 9/2 : 347人
 12/8 : 243人
 12/29 : 420人
 過去最高 → 1/14 : 503人

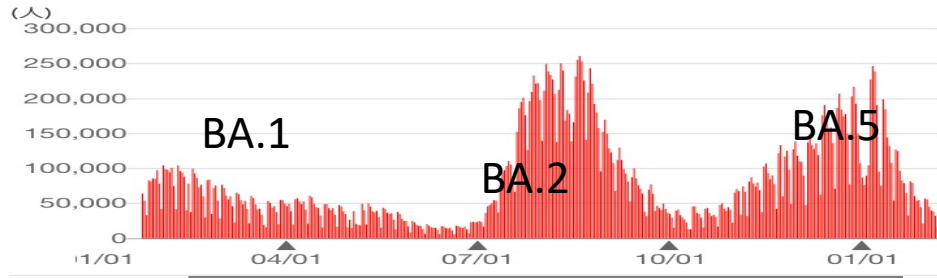
新規陽性者数の推移（日別）

情報更新日：2023年02月06日

新規陽性者数 **15,612** 人
 前日比 **↓ 16,847** 人

1週間平均 **40,668** 人
 前週平均 **56,642** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年



オミクロン株の方が死亡者数多い

死亡者数の推移

情報更新日：2023年02月06日

死亡者数 **124** 人
 前日比 **↓ 64** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年



死者数第7波のピークを超えた

入院治療等を要する者等推移

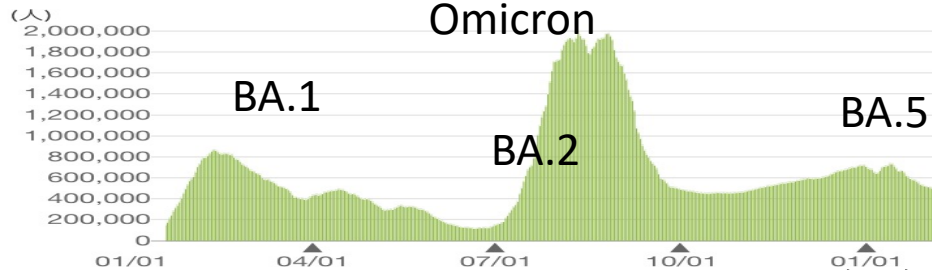
情報更新日：2023年02月06日

入院治療等を要する者 **490,461** 人 **↓ 4,241** 人

退院又は療養解除者数 **21,608,715** 人 **↑ 4,919** 人

確認中 **10,593,958** 人 **↑ 15,804** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年



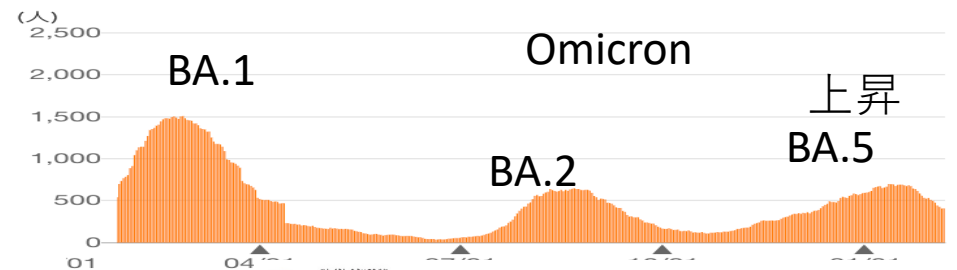
上昇傾向

重症者数の推移

情報更新日：2023年02月06日

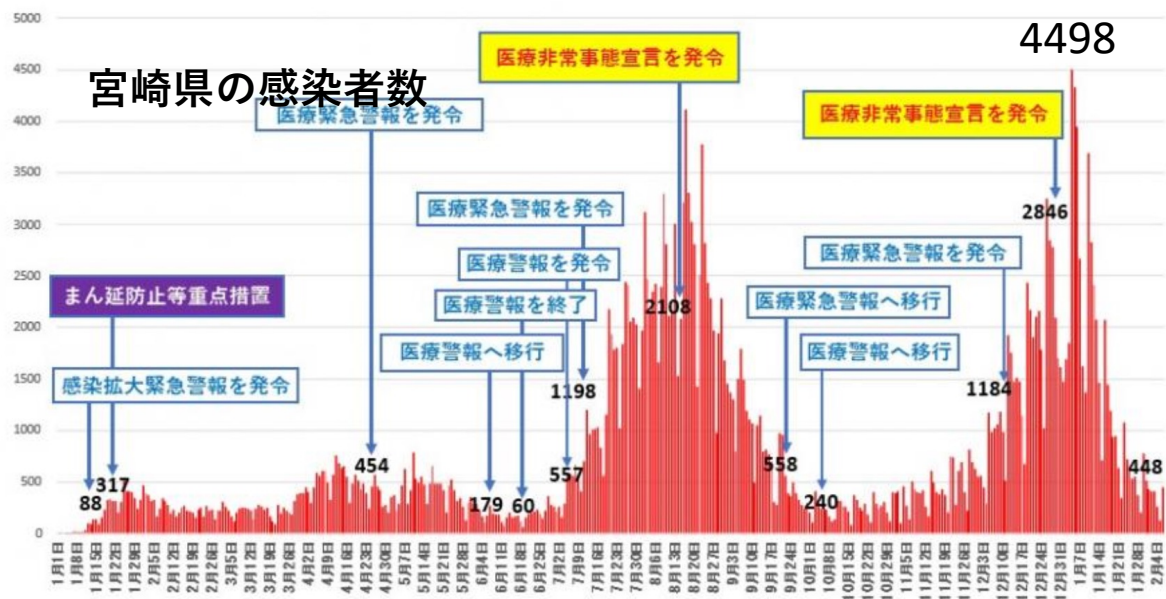
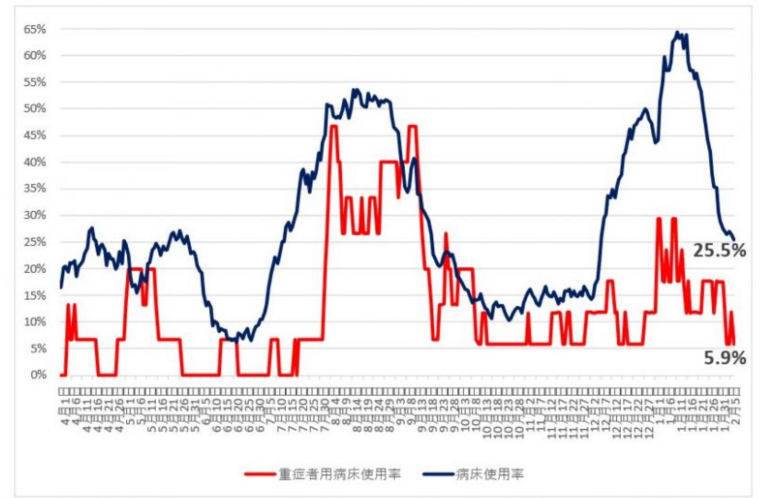
重症者数 **406** 人
 前日比 **↑ 1** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年



データからわかる - 新型コロナウイルス感染症情報 -

宮崎県の病床使用率



10万人単位死亡者今週も連続で宮崎県 1位

日本国内の感染状況



都道府県名	累積死者数	30日間死者数	10万人単位死者数	人口(万人)
1 宮崎県	741	201	18.9	106
2 大分県	710	200	17.8	112
3 熊本県	1,226	276	15.9	173
4 高知県	553	109	15.8	69
5 三重県	988	242	13.6	177
6 山梨県	369	106	13.2	80
7 福島県	728	241	13.1	183
8 鳥取県	247	72	13.0	55
9 愛媛県	644	173	13.0	133
10 徳島県	389	90	12.6	71
11 鹿児島県	828	189	11.9	158
12 香川県	576	113	11.8	95
13 岩手県	591	140	11.5	121
14 佐賀県	459	93	11.4	81
15 長崎県	594	147	11.2	131
16 福岡県	3,015	562	10.9	513

指標		現状値	備考
医療提供体制等の負荷	病床全体	25.5%	・2月6日時点 ・現時点での確保病床数 415床
	病床のひっ迫具合(現時点での確保病床数の占有率等) うち重症者用病床	5.9%	・2月6日時点 ・現時点での確保病床数 17床
感染の状況	新規報告数(直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数)	243.1人	・1月31日から2月6日まで

※病床使用率、重症者用病床使用率の算定にあたっては、新型コロナウイルスの確保病床における入院患者をベースに算定しています。

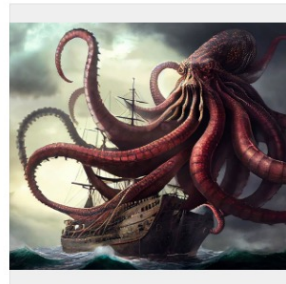
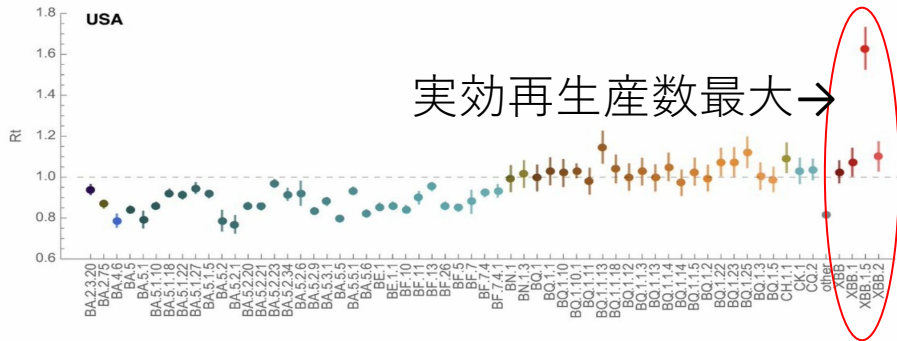
区分	発令目安
医療非常事態宣言	・病床使用率、重症病床使用率のいずれかが50%を超える又はそのおそれがある場合(感染状況や関係指標を総合的に判断)
医療緊急警報	・病床使用率、重症病床使用率のいずれかが25%を超える又はそのおそれがある場合(感染状況や関係指標を総合的に判断)
医療警報	・病床使用率、重症病床使用率のいずれかが15%を超える場合

オミクロン派生株

「XBB.1.5 (クラークン)」

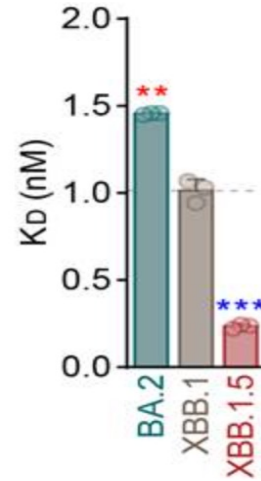
- 米疾病対策センター (CDC、12/31) : 直近の週の国内のオミクロン株派生型「XBB.1.5」による感染が40.5%を占めた。前週の2倍に急拡大。
- 米国で感染者数や入院者数が増加
- 現存するオミクロン下位変異株のうち免疫回避力が最も強い
- XBB.1.5は「ステルスオミクロン」と呼ばれたBA.2から派生したXBBの下位系統。
- 「現存する最悪の新型コロナ変異株」: 免疫回避性 + 伝染性が過去最高。
- XBB1.5は486領域に変異 (S486P変異) をもっておりそれがACE2への結合力を増強 = 細胞と結合する力が強い = 細胞への侵入効率が低い (BA.5の2-4倍)
- XBBは、人体の免疫に勝ちやすいように変異 → その代わりに人間の細胞に対する感染力 (結合力) は低下した。結合力を高めたのが、XBB.1.5として出てきた
- オミクロンXBB.1.5株は、オミクロンBA.2株またはBA.5株ブレイクスルー感染によって誘導される中和抗体に対して極めて抵抗性を示した。
- 集中治療室の入院患者11%増加した。
- 日本国内でも、12/26の千葉の分離株が、XBB.1.5と確認、昨年12月以降、都内で31件確認
- 心臓、脳血管、胃腸の障害が生じやすい。
- EUでは、まだ全体の2.5%程度で、今から1ヶ月は、優位な亜種にはならない。

Reproductive number R_t at present across Pango lineages



XBB.1.5にはノルウェーに伝わる伝説の巨大タコ「クラークン」の通称がついた

「現存する最悪の新型コロナ変異株」

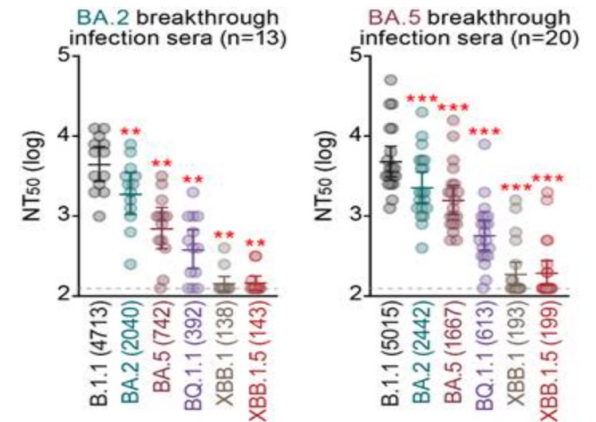


結合力がオミクロンBA.2株と比べると6倍、オミクロンXBB.1株と比べると4倍

図2 オミクロンXBB.1.5株はオミクロンXBB.1株よりも強くACE2受容体に結合する

新型コロナウイルスの受容体であるACE2とスパイクタンパク質との結合を評価した。Y軸は結合係数(KD)を示し、値が小さいほど結合が強いことを示す。

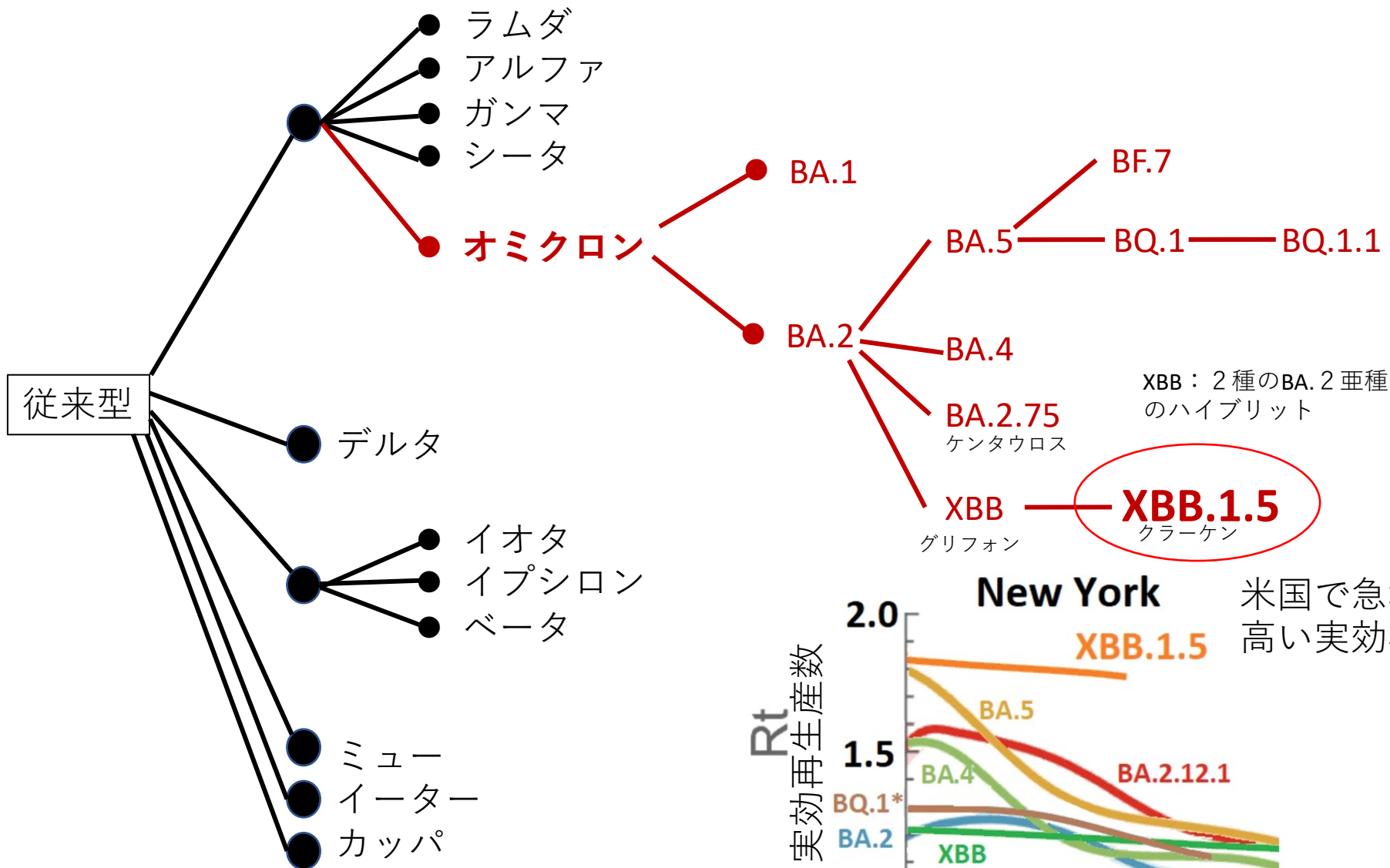
統計的有意差をアスタリスクで示している (**, $P < 0.001$; ***, $P < 0.0001$)。



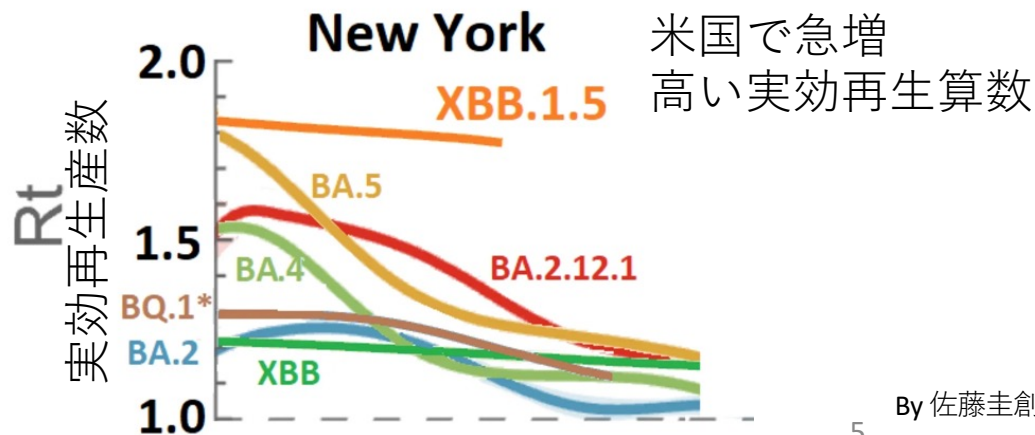
オミクロンXBB.1.5株は中和抗体に対して極めて抵抗性を示す

The Lancet Infectious Diseases
DOI: 10.1016/S1473-3099(23)00051-8

新型コロナウイルスの変異株の系統図



XBB: 2種のBA.2亜種のハイブリット



オミクロン対応2価ワクチンの追加接種

XBB.1.5に対する感染予防効果 48%
 (18~49歳：49%, 50~64歳：40%, 65歳~：43%)

BA.5に対する感染予防効果 52%
 CDC Dataから

2価ワクチン打てばかかりにくい

系統	変異株	ギリシア名	
BA.2系統	BA.2.75	ケンタウロス (ケンタウルス)	Centaurus
	BA.2.75.2	ケイローン (カイロン/キロン)	Chiron
	XBB	グリフォン	Gryphon
	XBB.1	ヒッポグリフ	Hippogryph
	XBB.1.5	クラークン	Kraken
	BA.2.75.6	ディクティス	Dictys
	BJ.1	アーガス	Argus
	BA.2.3.20	バジリスク	Basilisk
	BM.1.1.1	ミマス	Mimas
	BN.1	ヒドラ	Hydra

系統	変異株	ギリシア名	
BA.4/5系統	BQ.1	テュポーン (テュボン/タイフォン)	Typhon
	BQ.1.1	ケルベロス	Cerberus
	BF.7	ミノタウロス	Minotaur
	BA.4.1.9	ケートス (ケートゥス / セタス)	Cetus
	BA.4.6	エテルナ	Aeterna
	BA.5.1	スフィンクス	Sphinx
	BA.5.2	トリトン	Triton
BF.11	パイソン	Python	

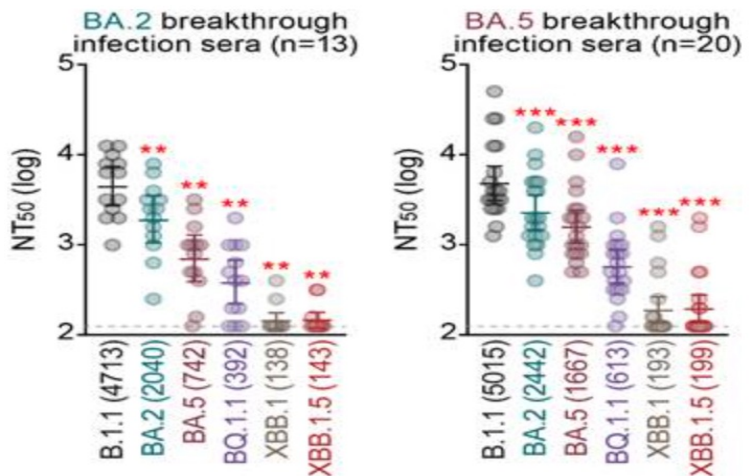
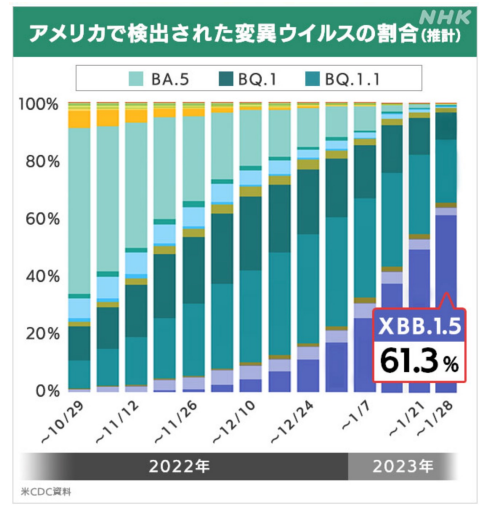
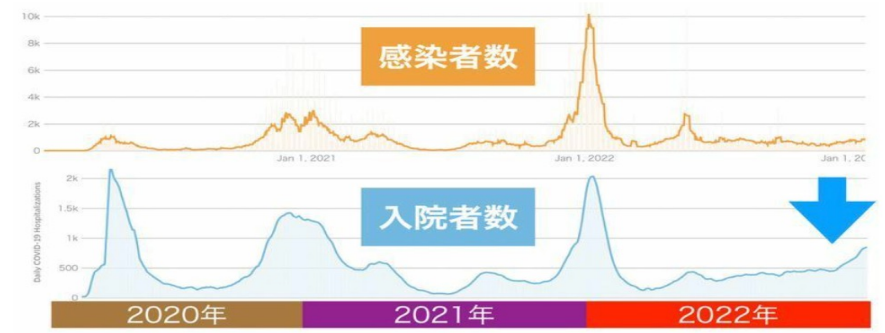


図3 オミクロンXBB.1.5株は中和抗体に対して極めて抵抗性を示す

BA.2やBA.5に感染した人も
 容易にXBB.1.5に感染する



■ 北東部は8割以上が「XBB.1.5」
 ニュージャージー州などの学校では、マスク着用が再び義務化



ニューヨーク州における新型コロナウイルスの新規感染者数および入院患者数の推移 (Johns Hopkins大学 CORONAVIRUS RESOURCE CENTERより)
 感染者はあまり増加していないのに入院患者が増加

医療体制や負担「3月上旬めどに具体化」 コロナ5類移行で首相

1/27(金) 18:55 配信 34



岸田文雄首相は27日、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを5月8日から季節性インフルエンザと同等の「5類」に引き下げると表明した。位置づけの変更に伴う個人の医療費の公費負担と医療体制については「3月上旬めどに具体的な方針を示す」とした。首相官邸で開かれた政府対策本部で正式に発表した。

新型コロナウイルス感染症対策本部の会合で発言する岸田文雄首相（右）。左は加藤勝信厚生労働相。首相官邸で2023年1月27日午後6時24分、竹内幹撮影

【受診の目安】この症状、迷わず受診を

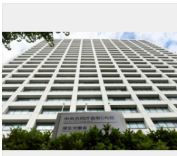
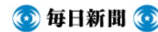
対策本部で首相は「特段の事情が生じない限り、5月8日から『新型インフルエンザ等感染症』から外し、5類感染症とする方針を確認した」と説明。「ウィズコロナの取り組みをさらに進め、家庭、学校、職場、地域、あらゆる場面で日常を取り戻すことができるよう着実に歩みを進める」と語った。

現在の「新型インフルエンザ等感染症」では、治療や入院にかかる医療費などを公費で賄ってきたが、5類に変更すれば制度上は自己負担が生じることになる。ただ、急激な負担増を避けるため首相は「自己負担分の一定の公費支援について、期限を区切って継続する」と説明。政府はコロナ患者の治療について一部自己負担を求める保険診療に切り替えた上で、高額な抗ウイルス薬の無料提供を続ける方向で検討している。

無料で実施しているワクチン接種については「必要な接種は、引き続き自己負担なく受けられるようにする」とした。無料接種は現在3月末が期限だが、政府は4月以降も継続する方針だ。

新型コロナワクチン、4月以降も無料接種継続へ 次回は今秋まで

2/7(火) 19:53 配信 1090



厚生労働省が入る中央合同庁舎第5号館＝東京・霞が関で、竹内紀臣撮影

厚生労働省は、新型コロナウイルスワクチンについて、4月以降も全ての接種対象者の無料接種を継続する方針を固めた。次の追加接種については、今年秋冬に実施する方向で調整している。

【受診の目安】この症状、迷わず受診を

新型コロナワクチンは、予防接種法に基づいて無料接種されている。3月末で無料接種の期限を迎えるため、専門部会が4月以降の対応について検討してきた。8日の専門部会で今後の対応方針を示す。これを受け、厚労省は3月までに新たな接種方針を正式決定する。

国内では高齢者らは5回目、それ以外の12歳以上は4回目まで接種が認められている。接種対象者については引き続き、高齢者などの重症化リスクがある人を優先する。ただ、重症化リスクがなくても重症化するケースもあるため、これまで同様、当面は無料接種を継続する。5～11歳の子どもや生後6カ月～4歳の乳幼児への接種についても、接種開始からの期間が短いことを考慮して、引き続き継続する。

従来株とオミクロン株由来の成分を含む「2価ワクチン」は昨年9月から高齢者など重症化リスクの高い人から接種を開始。重症化予防効果は接種後6カ月以上、死亡予防効果は接種後10カ月以上続くとする知見から、厚労省は追加接種の時期について、前回から1年が経過する今年秋から冬に実施することが妥当と判断したとした。ただ、重症化リスクがある人については、秋冬を待たずに接種することを念頭に準備を進める。【村田拓也】

新型コロナ 8日から医療緊急警報に引き下げ 宮崎県

2/7(火) 19:14 配信 1



テレビ宮崎

続いて新型コロナです。宮崎県は感染者が減少し医療提供体制の負荷が軽減されているとして医療非常事態宣言を引き下げ8日からは医療緊急警報とすることを決めました。

7日の新規感染者の発表は448人で80代1人が亡くなりました。入院している人は106人、病床使用率は25.5%。前の週の同じ曜日との比較では21日連続で減少しています。8日の宮崎県の対策本部会議後に河野知事は…

(河野俊嗣知事)

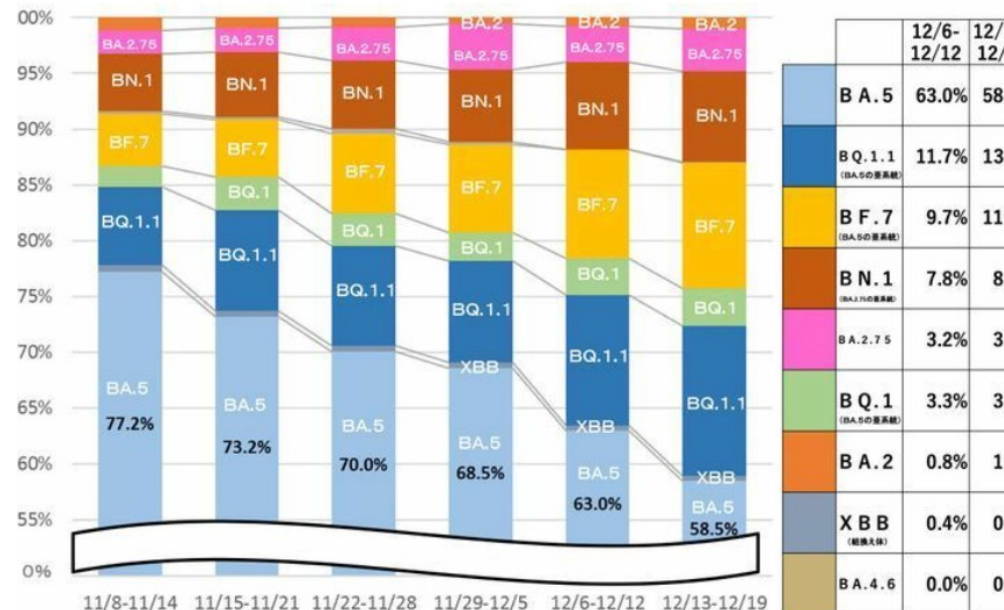
「2月16日が医療非常事態宣言の終期でしたが、現在の感染状況、病床利用率等を踏まえて前倒しで引き下げを決定した」

2022年10月5日以降の第8波では362人が亡くなり、80代と90代で74%を占めました。宮崎県では、高齢者や障害者の施設では引き続き対面での面会を控えるよう求めます。県内で初めて新型コロナウイルスが確認されてまもなく3年。これまでに感染した人の累計は31万2314人で人口に占める割合は29.2%となっています。

ゲノム解析結果について (月別内訳)

(令和5年1月12日12時時点)

名称	令和4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
デルタ株	260	21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オミクロン株 (BA.1)	10,115	3,158	2,136	565	53	1	1	0	0	0	0	0
オミクロン株 (BA.2)	54	248	2,127	4,427	4,911	2,893	4,558	214	68	78	199	227
オミクロン株 (BA.2.12.1)	0	0	0	1	29	213	693	49	7	0	0	0
オミクロン株 (BA.2.75)	0	0	0	0	0	0	24	45	70	140	549	823 (+219)
オミクロン株 (BN.1)	0	0	0	0	0	0	0	0	11	141	1,188	1,837 (+587)
オミクロン株 (BA.4)	0	0	0	0	0	70	601	75	40	2	0	0
オミクロン株 (BA.4.6)	0	0	0	0	0	0	23	32	37	36	65	19
オミクロン株 (BA.5)	0	0	0	0	8	1,144	29,135	21,587	19,044	9,787	15,802	13,893
オミクロン株 (BF.7)	0	0	0	0	0	0	10	30	56	217	1,186	2,436
オミクロン株 (BQ.1)	0	0	0	0	0	0	0	0	5	72	548	722
オミクロン株 (BQ.1.1)	0	0	0	0	0	0	0	0	5	278	1,719	2,857 (+927)
BA.1とBA.2の連続体	0	0	2	4	8	0	0	0	0	0	0	0
XBB	0	0	0	0	0	0	0	0	1	78	125	99 (+24)
XBB.1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15 (-6)
計	10,429	3,427	4,266	4,997	5,009	4,321	35,045	22,032	19,344	10,829	21,381	22,928
新規陽性者数 (報告日別)	194,563	416,171	256,738	188,021	101,664	58,556	567,728	757,621	244,023	100,143	257,031	462,603
実施割合	5.4%	0.8%	1.7%	2.7%	4.9%	7.4%	6.2%	2.9%	7.9%	10.8%	8.3%	5.0%



東京都の変異株の割合の推移 (東京都. モニタリング項目の分析. 令和5年1月5日公表)

- 全国的に感染者数が減少傾向。暫く小康状態のあと微増し、どこかのタイミングで亜種による9波
- 実効再生算数では、全国的に低下。
- 感染の実態は、九州が減少し、中・四国に感染者が多い。
- 延岡市の実効再生産数は、1以下が続いており、感染者数の減少傾向は、しばらく続くと考えられる。
- 加えて、県内の病床使用率は、60%と急増したが、その後減少に転じ、現在25%に低下（医療緊急警報2/8~）。
- 県内の、死亡者数は全国平均と同様に、第8波になって急増している。（直近30日間の10万人単位死亡者数宮崎県全国1位）
- 高齢者への感染が増加し、入院患者数、重症患者数、死者数も減少傾向に転じた。
- 延岡市内の入院患者もこの1週間5～10人程度を推移しており、減少傾向となった。
- 以上より、全国的には感染者減少傾向にあり、延岡市内にも減少傾向であるが、入院患者も減少してきた。
- 今後、BQ.1, BQ.1.1系統への、置き換わりが進んでいる。今後、米国から、XBB.1.5が流入し、増加する可能性あり。
- 延岡市点滴センター：患者減少
- コロナ関連患者の救急要請件数、減少傾向。
- インフルエンザは、A香港株が、今週に入って再度若年層で増加傾向。（福岡、鹿児島は、警報。宮崎、佐賀がもう少しで警報）
- インフルエンザとコロナとの共感染の症例が増えてきた。
- 現在、発熱外来での感染ウイルスの比率は、6割インフルエンザ、4割コロナ
- サッカー、プロ野球のキャンプで人流増加で、インフルエンザもコロナも増加する可能性あり
- 3月末からに亜種による波が来る可能性あり